

# こころほく・人と生きもの・支えあう会

グループ代表 新堂泰江 〒222-0004 神奈川県横浜市港北区大曽根台 22-14 ☎045-543-5124 ✉shinshin720@hotmail.co.jp

### ★★★ 目次 ★★★

- ⇒ 「ブラン君」 稲葉早苗 / 港北区猫ボランティア連絡会報告 ..... p.1
- ⇒ 「シンガブルキャンペーン目標達成までの道のり」 K.F. .... p.2
- ⇒ 「時代と共に猫と暮らす」梶谷泉 / 「私の地域猫活動」 灘波由美子 ..... p.3~4
- ⇒ 「三毛猫みーちゃん」 池田真有美 ..... p.4
- ⇒ 管理人日誌 新堂泰江 ..... p.5
- ⇒ 「活動の足跡」「会計報告とお礼」「ご寄付のお願い」 編集後記 ..... p.6



## 「ブラン君」

稲葉 早苗

2月3日の朝、玄関のチャイムが鳴りドアを開けると、マンションのお向かいにお住いのNさんが立ってられました。こんな早くに何かあったのかと思い伺ってみると、昨日の朝散歩の際敷地内の植え込みに、白い猫がいるのを愛犬が見つけたが、昨日の内に居なくなると思っていたところ、今朝もまだ同じ場所に居るが、猫の扱いが分からないのでと尋ねてみえたのでした。前日から全く動いた様子がないのであれば、多分骨折でもしているのではと思い急ぎ一緒に行ってみると、ここと言われ覗かなければ気付かない植え込みの奥に、確かに白い猫がうずくまっているのが見えました。

まず様子を見る為に、取り敢えずお水と缶詰を入れた器を直ぐ近くに置いてみたのですが、少なくとも丸一日は動かずそこにいたというのに、お水さえも全く口にしようとしません。これでは何としても保護し、怪我の状態だけでも診て貰わなくてはと思い、そーっと手を伸ばすとゆっくりですが2.3歩体を前に移動させました。まずい！このままもし逃げられてし

まったら、もう捕獲するのはまず無理。二人では手が足りずお世話になっている動物病院に応援を求めると、先生と助手の方が駆けつけてくれました。植え込みの硬い枝を掻き分け、なんとか猫の体を持ち上げた時、初めてその怪我を目の当たりにして驚きました。その白い猫は片脚がかるうじて皮一枚で繋がっているという、全く予想外の酷い状態だったのでした。

診察後の先生のお話では、少なくとも1週間くらいは経っているであろうとの事で、その間想像し難い痛みと飢えにじっと耐えていたとわかり、胸が締め付けられる思いでした。幸いだったのが今年はや夜の寒さが例年ほど厳しくなかった事、長毛で体温の低下を僅かでも防げた事、定期的に雨が降らなかった事など、今にして思えば、後にブランというお洒落な名前を付けて貰った真っ白な猫は、助かるべく命を授かっていたのかも知れません。

その後の治療の様子などは、会の事務局の方がお忙しい中ブログに載せて下さっていますが、この6か月間数々の事が有りました。見ていてもこちらが苦しくなる様な辛い治療にも耐えてくれて、あの酷かった怪我がここまでと言うくらい小さくなりました。2月から休日返上で治療にあたって頂いている先生とスタッフの皆さん、こういう状況の中ブラン君の為、時間を割いて活動して下さい支えあう会の事務局メンバーの方々、どれだけ心強かったか分かりません。ポスターをお知り合いの方で作成して貼り歩いて下さったSさん、遠くからわざわざいらして下さっているNさん、そしてブラン君の為に温かいご支援とお言葉を頂いた大勢の方々、皆様には感謝の申し上げようもございません。本当に有難うございました。心より御礼申し上げます。◎



筆者にだっこされて

## 2020年度「港北区猫ボランティア連絡会」のご報告

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前号発行以降、「港北区猫ボランティア連絡会」は、開催されておりません。



飼い主のいない猫が怪我や病気をした時の治療費は常に頭の痛い問題です。支えあう会へ相談が寄せられた場合は、保護した方のご負担に加えて支えあう会からカンパしたり、ご負担が難しい時や金額が大きい時はニュースレターやブログに記事を書いてご寄付を募ったりし、なんとかやりくりして来ました。唯一の例外は2015年5月に保護した、虐待で尻尾を失ったエル君です。7か月に渡る入院治療費が80万円と嵩み、工面出来なかった25万円を初挑戦のクラウドファンディングでご支援いただきました。

今年2月、過去に類を見ない大怪我をしたブラン君の治療費集めに関わることになりましたが、楽天家の私は「なんとかなるだろう」と気楽に考えていました。数人の方が保護に関わっていると聞いていましたし、そのうちのお1人がクラウドファンディングを立ち上げる予定だとも聞いていましたので、継続的にサポートしていけば大丈夫だろうと思ったのです。まずは今まで通りニュースレターとブログに記事を載せ、支えあう会の会員さんや事務局メンバーの知人に声をかけました。保護主さんとご友人は町中を歩き回ってポスターを貼っていただきました。少しずつご寄付が集まり始め、出だしは順調でした。

3月を迎え2月の請求書を見た時、これまでの甘い考えが吹っ飛びました。専門医薬品の初期費用とひと月の治療費が150万円を超えていたのです。支えあう会史上最高額です。計算間違いでは？と何度も請求書を見直し、先生にも内訳をしつこく尋ねましたが野良猫価格でやっている分も多く、さらに値下げしてもらおう余地はありませんでした。

保護主さんやご友人が多くをご負担なさっていましたが全額は難しく、立ち上げ予定のクラウドファンディングも諸事情で頓挫したとのこと。サポートなどと言って気楽に構えている場合ではなくなってきました。それまでに集まったご寄付に加え、保護主さんとご友人のさらなるご負担もあり、4月末までにはなんとか180万円を支払うことが出来ました。しかし3・4月分を加えた治療費総額は230万円にまで増えており、未払いが50万円ほど残っていました。傷の治りが遅く先の見えない不安に加え、治療費集めのプレッシャーで鬱々と気分の重い毎日でした。時間が経つにつれご寄付も集まらなくなっており、新たな展開が必要でした。

そこで2018年から活用している「シンカブル」(NPO法人や任意団体を応援するファンディングフォーム)で「ブラン君キャンペーン」を始めたのですが、問題はいかに情報を拡散するかです。拡散と言えば

SNS、ということで苦手意識があり敬遠していたFacebookページとTwitterに挑戦してみましたが、やはり付け焼き刃では上手くいくはずありません。特にTwitterには他にも怪我や病気で支援を求める書き込みがたくさんありましたが、そういった書き込みの中でも拡散に成功しているものとそうでないものがあり、どんな要素がその差を生むのかが全く分かりません。事務局メンバーにも知恵を絞ってもらいましたが、これと言った名案も浮かばず拡散もご支援も伸び悩みが続きました。キャンペーンが上手くいっていないことを心配し複数回ご支援くださったり、SNSでの拡散方法をアドバイスくださったり、遠く海外から応援してくださる方もいて、励まされると同時になんとしても成功させなくては、と決意も新たに再び新たな展開を考えることになりました。

Syncable 寄付サイト 目標額を大きく超えて達成！

真っ先に思ったのは「マスメディアに取り上げてもらう」ということ。しかし世の中は新型コロナ一色、テレビや新聞が1匹の猫に興味を示してくれるとは思えません。でも、ペット専門のWEBニュースサイトだったら少しは可能性があるかもしれません。早速ダメ元でいくつかのペット情報サイトにメールを出したところ、「sippo」というサイトが記事を掲載してくれることになりました。これがダメだったら次はどうすればよいのか、と私は気が気ではありませんでしたが、そんな心配は杞憂に終わりました。

6月9日に記事が掲載されると同時にどんどんご支援が集まり、第一目標も第二目標もあっという間にクリア。全く想像していなかった金額をご支援いただくことが出来たのです。ブラン君の治療費は当分支払いに困ることがなくなりました。

とは言え安心してばかりもいられません。「sippo」に掲載されたことは単なる偶然でしかありません。本当にたくさんの方にご支援いただきましたが今回だけのご縁になる方も大勢いらっしゃると思います。ブラン君のことだけでなく、これから私たちが保護する怪我や病気の猫たちのためにも、せっかく始めたSNSを使いこなせるようになって、更新を増やしたりして、継続して支えあう会を応援して下さる方ももっと増やさなくてはいけない、と強く感じた半年間でした。◎





## 「時代と共に猫と暮らす」

梶谷 泉

写真は、6月に我家にやってきたジエロコモと咲耶です。3月に母が亡くなり、夫が子猫を欲しいと言いました。それで新堂さんをお願いし、後に保護猫の連絡がありました。子猫の命を救い、ご縁をつないで頂き本当にありがとうございました。

記憶では昭和30年代から、ずっと我が家には猫がいました。当時は、裏に山、前は水田で、車はほとんど通らず、人もゆったりとして、今の様に「庭を猫がトイレ代わりに使った」と怒る人もおらず、動物虐待を投稿するなど想像もつかなかった、そんな時代でした。

昭和は動物の権利意識はなかったかも知れませんが、動物達には自由がありました。その感覚のまままで今日まで来た私は、至らなかつた後悔と共に、動物が自由に生きられた時代の健やかさも、同時に、偲ばれるのです。まぐれ猫のミミは、私が家を離れた折は家出し、近くの猫好きのお宅に上がり込んで暮らし、また戻ってきた自由猫で、美味しいものがあると「ウマイウマイ」と感極まった昔猫でした。

21世紀に入って大きく意識が変わりました。保護猫の黒猫姉妹の

譲渡を受けた時からです。それまで猫は同居人でしたが、今度は人が親代わりです。巴はわずか5歳で亡くなりましたが、静は14歳まで生き、最後は私の腕の中で亡くなりました。できる限りのことはやったつもりですし、静のことを思えば、猫はもうこれで最後にしよう。それと影絵の美術館も造るつもりだったのです。

しかし、この度、ご縁により子猫の飼い主となりました。近年は、飼い主の年齢制限や、日常生活のルールなどが多々あります。特に、踏ん切りが必要だったのは、猫をケージに入れるということです。災害時の避難所生活に必要と・・・リフォームも行いました。猫部屋兼食堂と台所の間は、アコーディオンカーテンとロールカーテンで、成長と共に突破と防御の工夫が繰り返されるのです。居間兼仏間との境は猫用障子が成功。

そして、寂しく感じることは…、かつてのように猫が私の制作を見守り、夜は共に寝ていた暮らしが失われたことです。が、それもまた、時代と共に変わってゆくことでしょうし、今は猫が繭（まゆ）に包まれ守られている時かと思います。☺



ジエロコモと咲耶



乗り出し ジエロコモ



## 「私の地域猫活動」

灘波 由美子

私の住んでいる地域は猫がとても多いです。猫好きの方もいますが、無関心だったり、疎ましく思っていたりする人もいます。数年前、近所に不妊去勢しないまま餌やりをしている方がいました。

どんどん増えていく猫たちを見ながら、早くTNRしなければ大変なことになると思いながらも何から始めればよいか分からず、状態の悪い子たちを保護して一緒に暮らしていました。心配する日々でしたが、ある日を境に耳カットした子たちが一気に増え私はとても安堵しました。

それから数年後、ブランくんという猫を通して「こうほく・人と生きもの・支えあう会」の皆さんと知り合いました。

ブランくんは大けがをしながらも懸命に治療を受けているとても可愛い白猫です。怪我の経過が気になり、ブログやニュースレターを読んでいるうちに私の地域のTNRをして下さったのが「こうほく・人と生きもの・支えあう会」の皆さんだと知ったのでした。ブランくんをきっかけに新堂さんと藤巻さんと知り合ったことで、周辺猫のことに一緒に取り組むようになりました。

私には2歳になる息子がいるのですが、「パパ・ママ」よりも「にゃんにゃーん」と言っている事の方が多いような猫好きなお子です。猫たちについて歩くため、自然と餌やりさん宅周辺が息子の散歩コースになりました。散歩中改めて見てみると本当に猫が多く、その一方で、猫除けを置いて

ているお宅も多いです。

実際に猫の事を悪く言う方もいました。しかし、悪いのは猫ではなく人間です。

私は近所の方々に、餌やりさん達がただやみくもに餌をあげている訳ではない事、TNR や地域猫の事を正しく知ってもらい、猫も人も安心して暮らせる街にしたいと考えました。

その為に周辺地域の清掃と、餌やりさん宅へ、未だ不妊去勢を済ませていない猫が来ていないか？情報の収集に向かうようになりました。ま



た、区役所の生活衛生課の方が TNR のチラシを作って下さり周辺地域に配ることが出来ました。

「こうほく・人と生きもの・支えあう会」の皆さんや、以前から捕獲に協力している方々のおかげで、成猫 11 頭の TNR と子猫 9 頭を保護する事が出来ました。

現在もまだ TNR の途中で、変わらず猫の事を疎ましく思っている方もいると思います。けれども清掃していると声をかけてくれたり、TNR の話を聞いてくれたりする方もいます。「捕獲器を置いてもいいよ」と言ってくださる方もいました。

私の地域猫活動はまだスタートしたばかりですが、自分に出来ることを続け猫にも人にも優しい街にしていきたいです。◎



池田 眞有美



「三毛猫みーちゃん」

三毛猫みーちゃん、大曽根商店街生まれの小柄な子。こうほくいきもの会の新堂さんから、2018年12月1日に電話があり、野良猫さんを捕獲、不妊手術は済んだが譲渡会までの預かりさんが見つからないのでお願いできないかと。新堂さんとは大倉山の梅林にウォーキングに出ているときに知り合い、いきもの会の会員にはなったが活動に参加したことも、預かりをしたこともなく、その時我が家には 10 歳と 12 歳の気難しいシニア猫が 2 匹。「賢い三毛猫」に昔から興味のあった私は、預かりなら大丈夫かなと OK をして早速、動物病院に迎えに行きました。

みーちゃんは痩せて目だけが大きくてこんなに小さいのに手術がよくできたなあと思うほど小柄で子猫のよう、推定生後半年くらいではとのことでした。大きな瞳は真っ黒、うなりも威嚇もしませんでしたが全身に緊張感が漂っていたのは間違いありませんでした。

自宅ではみーちゃんだけの部屋を作り 2 段式ケージにベッドとトイレを入れ毛布とタオルで周りが見えないように包み様子を見ることにしま



した。

みーちゃんの一人部屋なのに、先住の 10 歳のレオがいつの間にか興味津々で入り込んでケージの外から眺めている日々が続きました。みーちゃんが黙っていたのは最初だけ。徐々に自分が囚われの身と気がつくと、私たち人間にはシャー&フーの威嚇の嵐が...

ご飯を出すのも鋭い爪に狙われ、手には生傷が絶えませんでした。それでも時折、機嫌がよければ体を触らせてくれることもあり、おお〜と私が喜ぶと主人が苦笑いしていました。最初の一ヶ月は威嚇する声以外しゃべらなくて、障害のある子かと思うほどだったのを思い出します。そんなみーちゃんも徐々に慣れてきたのは春の日差しが感じられる頃でした。レオの姿があるとみーちゃんも猫仲間がいて安心するのか、ケージから出て先住猫たちもいるリビングでご飯も一緒に食べるようになりました。ただ最初は大食いだと思ったみーちゃん、実は小食で、かなりの猫食い。少量を何度も分けて食べるので、大食いの先輩猫マリリンがみーちゃんのご飯を狙っていても、先輩どうぞ〜と差し出してしまいます。集団生活をしていたみーちゃんには縦社会のルールでもあるのかしら。先輩猫のお皿にたまにご飯が残っていても決して手？口？を出したりはしないのです。大好きなチュールでも、先ず先輩方が一口ずつ頂いてから自分も美味しそうにゴクゴク、うまうま食べるんですよ、なんだか健気で...ほろつきゃいます。そして最近のみーちゃんのお楽しみはブラッシング。特にマリリンがブラッシング好きで毎朝、ご飯が済むとお風呂場のドア（毛が飛ぶのでお風呂場でしているの）の前で催促して待ち構えているそばで並ぶようにみーちゃんも行んでいます。マリリンがブラッシングし始めると自分もと、おずおずソロソロお風呂場に入ってきて腹出しまでしてせがむ姿は本当に可愛くなります。そしてブラッシングを丁寧に体中しているとあまり気持ちよさに我を忘れてうっとりしているのに、突然、エッ私としたことがと我に返り飛び起きるのが面白くてたまらないみーちゃんです。

振り返ると、我が家にやってきて 1 年 8 ヶ月が過ぎました。未だに膝の上にも上がってきませんし、抱っこも、爪切りもさせてくれません。知らない人間が家に来ると脱兎の如く 2 階に逃げて、未だに別居の長男夫婦と私の弟はみーちゃんをまともに見たことがありません。「幻の三毛猫みーちゃん」と呼ばれています。ひとみしりで猫仲間には律儀で礼儀正しいみーちゃん、いまでは私の顔を見るとミャーミャー色々話しかけてきます。いつか膝の上に来てゴロゴロ言ってくれるかな、一緒に毛布にくるまれてお昼寝できるかな、そんな日が来るのを楽しみに今日もみーちゃんと暮らしています。◎



## 管理人日誌 「2020 誰も体験したことのない夏」



7月から8月にかけて大倉山では 山百合、浜木綿（ハマユウ）が見事に咲き、少子化のカラスの雛は今年もたった1羽、昨年の子も相手が見つからずパラサイト状態で、ソーシャルディスタンスを保ちながら親の近くにいます。少子化故、成鳥となっても適当な相手が見つからないのでしょうか。台湾リス、日本リス、タヌキ、ハクビシン、アライグマを見かけることもあり、蛇行する鶴見川と太い尾根が人間だけでなく小さな生き物たちを育みます。



自主管理人の生業は福祉事業です。障がいのある人もない人も違和感なく、力を合わせて町の中で心豊かに暮らすことを目指している社会福祉法人です。しかし、2月後半からその運営には不安感が付きまとうようになりました。新型コロナウイルス感染症対策として施設を一定期間閉めるとしたら、どのくらい持ちこたえることができるのだろうか、家賃、人件費、諸々の経費を考えると3ヶ月もつのだろうかなどと考えていました。3月半ばになり国や自治体より障がいのある方々の在宅支援を認める通達があり、一人ひとりに在宅でのプログラムを作り1日2回の電話による進捗状況や暮らしの確認をして細かく記録したうえで事業者は給付費の請求を出来ることになり安心しましたが在宅支援にはまた別な苦労が沢山ありました。

6月から通常の活動を再開させて、消毒に力を入れ、密を避けるための工夫をしながら活動しています。こんなに注意して気を使っても神奈川県は最近都会並みに感染者が増えてきて先の見えない状況です。

人間社会がどうであろうと生きものたちの暮らしは営々と築かれ、お決まりの春の子猫も出現して、5月からは近所の商店街や港北区内の猫たちの子猫保護、TNRにも集中しました。3度目の正直で商店街では捕獲に協力して下さる方、近隣の若い住民の方の丹念な現地調査、区役所の協力で今までにない展開を得ることが出来て細々とでも継続することの大切さを感じています。

一方、別な地域のエサやり場では「可愛さから、優しさから猫ちゃんにエサをあげたくなる気持ちはわかりますが、近隣の住民は迷惑しています。この付近ではエサをあげないようにお願いします」と

の発信元が定かでない掲示がありました。2年以上前に庭に来る猫を増やした家の27頭を地域の方と協力のうえ横浜市の助成を受けてTNRしましたが、起点となる方が転居して猫たちが残りました。経緯を記したチラシを区役所が作成して掲示やポスティングのうえ世話人が残った猫たちにエサやりをしていました。敷地への猫の侵入や糞などで迷惑をかけているのは事実です。世話人としては気持ちが落ち着かないのですぐ区役所に相談したところ、担当者はさっそく現地調査をしました。また掲示を見た地域の方たちも心配してエサやりの時間に待っていただきました。地域の方と区役所担当で周辺の聞き取り調査のうえ、経緯を記した新しいチラシの作成、今後のトイレの事など一緒に考える事となりました。4日目には「緑道沿いに無許可で看板の設置をすることは禁止となっているので撤去させていただきました」との土木事務所の掲示がありました。

この地域でのエサやりには問題点が2つあります。①猫の世話をしていた方が事情により転居して、TNR後に主体となり世話をする人がいない事、②地域の住民でないものが世話をしている事（世話人自宅は800mはなれている）です。TNR応援はこれまで数えきれないほど取り組みましたが、どの地域も起点となる人たちが必ず存在して、TNR後の猫の世話を続け、地域猫の登録申請などをする場合もあります。この場所でも少しずつエサやりをする人が増えているので今後は協力して、迷惑をかけている方々の事を心に刻みながらネットワークを形成していく必要があります。



誰もが体験したことのない社会状況の中で両足を切断したプラン君への全国の方々からの応援に心から感謝申し上げます。休日返上で治療をしてくださる先生や病院の方々、第一発見者さん、保護主さんとグループの方々、支えあう会の熱血事務局にも心から感謝申し上げます。

戦争の犠牲となった方々、地震、コロナ、豪雨で命をなくした方々、被害を受けた方々に思いを馳せる夏となりました。



大倉山公園自主管理人 新堂泰江



## 活動の足跡



### ●2月(2020年)

- ・23日ニュースレター発行
- ・プラン君を保護、治療費集めのためSNSを始める。

### ●3月

- ・小さなまちの小さな平和展
- ・シンカブルでプラン君のキャンペーン第一弾開始。
- ・師岡チームで餌やりしていた「アラレちゃん」が急に人なれしたため保護しパディプロジェクトへ委託。(8月時点でまだ「おうち」探し中)。

### ●4月

- ・プラン君の治療費集め

### ●5月

- ・3日 大曾根商店街子猫4匹保護 パディ動物病院(以後「パディ」とする。)捕獲器貸し出し 篠原東 5月末返却
- ・7日 プラン君キャンペーン第二弾開始。
- ・13日 大曾根商店街 子猫4匹保護 パディ
- ・14日 大曾根商店街 ①白キジオス 手術 パディ タ方リリース
- ・15日 大曾根商店街 ②キジメス 手術 パディ 18日リリース
- ・19日 大曾根商店街 ③黒白メス 手術 パディプロジェクト委託
- ・21日 大曾根商店街 ④白キジオス 手術 パディ 22日リリース
- ・26日 大曾根商店街 ⑤キジメス 手術 パディプロジェクト委託 師岡町会員宅 瀕死の狸の相談 天国へ
- ・27日 港北区役所担当者へ 大曾根商店街猫について地域の方と相談 灘波 藤巻 新堂
- ・29日 大曾根商店街猫現況調査と周辺の聞きとり 区役所担当者 灘波 新堂
- ・30日 大曾根商店街 ⑥キジオス 手術 パディ タ方リリース ⑦キジ保護(山本さん宅)
- ・31日 大曾根商店街 ⑦キジ パディへ 6/2リリース 大曾根商店街周辺の清掃 板橋、藤巻、新堂 大曾根商店街清掃の継続 板橋、山崎、灘波、近隣の皆様

### ●6月

- ・2日 大曾根商店街 ⑧白キジ メス パディ 4日 リリース
- ・8日 大曾根商店街 ⑨キジ メス パディ 9日 リリース
- ・9日 「sippo」にプラン君の記事が掲載される
- ・14日 大曾根商店街 ⑩黒白 いなば動物病院(以後「いなば」とする。)へ 15日 リリース
- ・26日 大曾根商店街 ⑪キジ白 手術 いなば 27日 リリース
- ・28日 大豆戸町①黒白メス②キジ白メス いなば 30日 リリース 子猫3匹 ラヴィ動物病院(以後「ラヴィ」とする。)委託
- ・30日 大豆戸町 子猫2匹 パディ委託
- ・小机から鶴見川沿いの猫に関する相談あり、近くに住むボランティアさんを紹介しTNR継続中。

### ●7月

- ・1日 大曾根商店街 子猫1匹 ラヴィ委託
- ・10日 大豆戸町 キジ メス いなば 12日 リリース
- ・3日 師岡チームで餌やりしていた猫(ゆうちゃん)が突然運動障害となったため保護、10日程度入院の後ボランティア宅で引き取り。

### ●8月

- ・8日 大豆戸町 具合の悪い猫保護応援 未達成→相談者 取り組み継続中



## 会計報告とお礼

2020年2月～2020年7月末



銀行振り込みや郵便振替などでいつもご寄付をいただき感謝申し上げます。今回は、プラン君への寄付を、本当に多くの皆様より頂きました。直接お礼を申し上げるべきところ、紙面でのご挨拶をお許しください。また、お忙しい中お手渡しくださる皆様にも重ねてお礼を申し上げます。

猫たちの餌代は原則ボランティアが各自負担していますので、ご寄付は猫たちの手術・治療、運搬、事務費などに使わせていただきます。誠にありがとうございます。

	収入	支出
2020/1月末繰越金	401,947	
寄付金 ※1	3,051,391	
会費	3,500	
市手術助成金	50,000	
雑収(グッズ売上)	200	
医療費 ※2		2,182,723
通信費		55,558
印刷費		25,114
雑費		32,446
保護猫委託費		80,000
事務用品費		2,723
小計	3,105,091	2,378,564
2020/7月末 残高	1,128,474	

※1 プラン君宛は2,567,131円。シンカブル第二弾の寄付金は含まず。

※2 プラン君治療費は1,890,930円。医薬品購入費を含む。

## ご寄付のお願い

継続的なご支援を、どうぞよろしくお願い致します。

【会費・寄付金振込先】

三菱東京UFJ銀行 大倉山支店 普通 0008270

郵便振替 00270-6-54901

こうほく・人と生きもの・支えあう会



支えあう会の寄付サイト  
クレジットカードが使えます



家にある不要なブランド品  
ダンボールに詰めて送って  
寄付となります。

よろしくお願い  
します。



## ◎ 編集後記 ◎

コロナウイルスの感染拡大、顕在化してきた気候変動、美しいサンゴ礁の海でのタンカーの座礁・重油漏れと深刻なニュースが続く。今ほど人類の英知をもって行動すべき時期は他にないと強く思う。一人の100歩ではなく、100人の一歩を。そうやって、支えあう社会を強く望む、異常に暑い2020年の夏。ご自愛ください。ニュースレターのご意見・お問合わせは、編集担当:後藤尚味☒gotonaomi419@gmail.com まで◎

**BLOG** : <http://sasaeukai.blog17.fc2.com/> **WEB** : <http://sasaeukai.web.fc2.com/>

### ●こうほく・人と生きもの・支えあう会とは・・・

港北区で生活する人々や動物にとってやさしい地域をつくることをめざしています。

具体的な活動内容は；①飼い主の居ない猫の不妊・去勢手術と保健衛生、②ファンドレイジング、

③給餌活動、④啓発活動、⑤まちづくり、⑥広報。 当会では、随時会員を募集しています。